

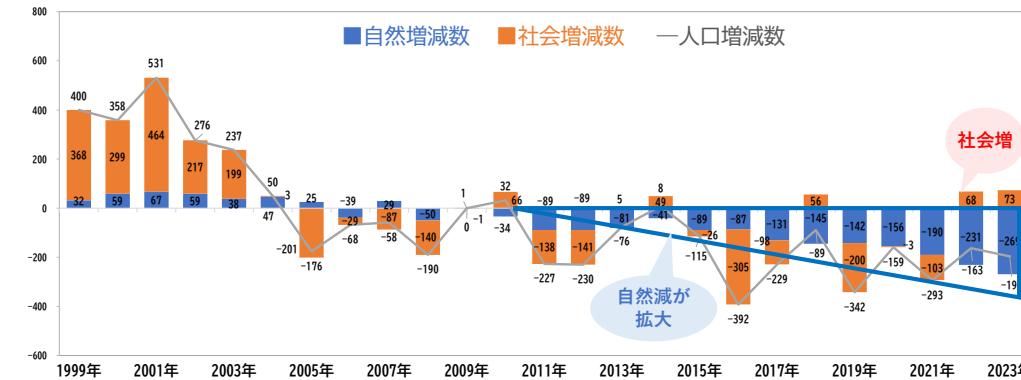
第3期宇土市まち・ひと・しごと創生総合戦略【概要版】

第1部 第3期人口ビジョン

■人口の現状分析

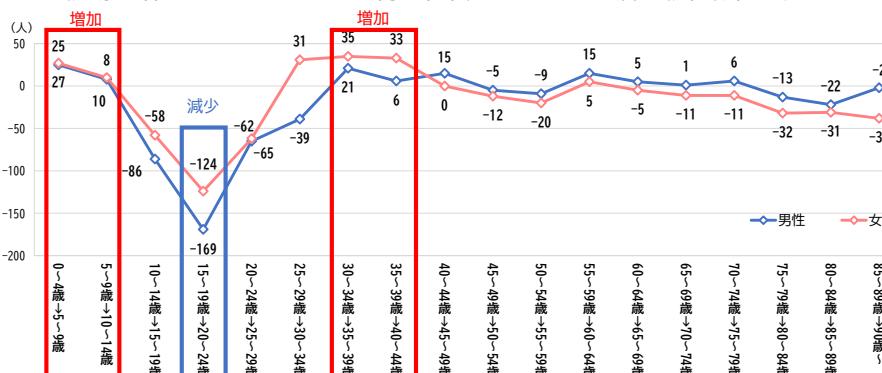
1 自然増減数・社会増減数の推移

- 死亡数の増加と出生数の減少に伴い、自然減が拡大傾向にあります。
- 社会増減は、平成28(2016)年には熊本地震の影響で大きな社会減となりましたが、直近の令和4(2022)年～5(2023)年においては社会増となっています。



2 年齢階級別の人団体移動の最近の状況

- 平成27(2015)年から令和2(2020)年における人口移動において、男女ともに「15～19歳→20～24歳」で大幅な転出超過となっており、進学・就職に伴う転出の影響などが考えられます。
- 「0～4歳→5～9歳・5～9歳→10～14歳」、「30～34歳→35～39歳・35～39歳→40～44歳」の人口移動は増加となっており、子育て世代のファミリー層の移住傾向が見られます。



3 宇土市と他市町村間の通勤・通学流動

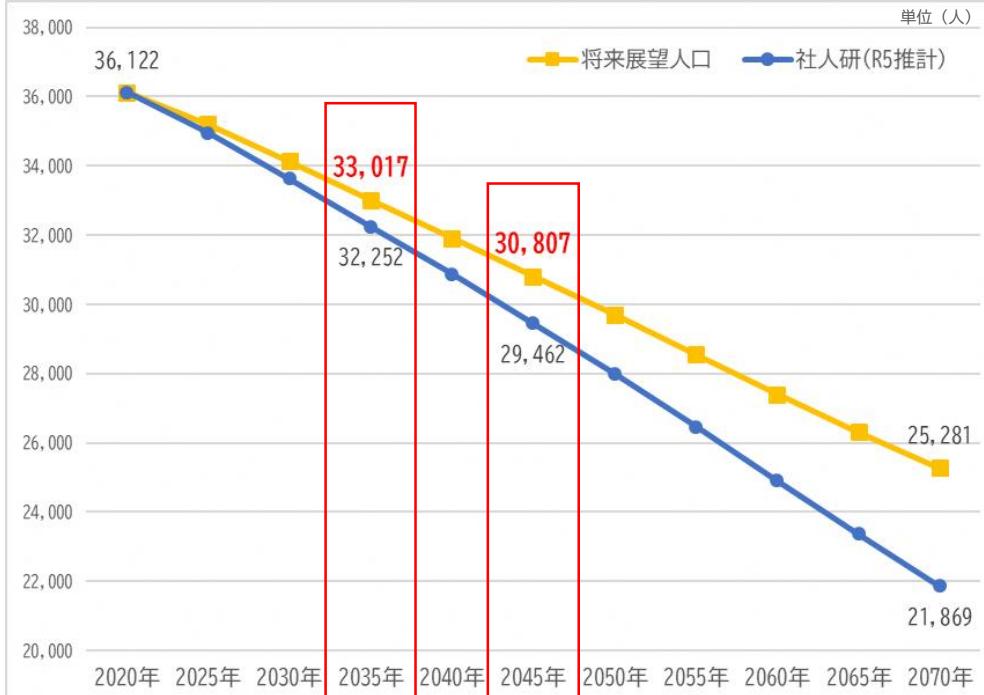
- 宇土市と他市町村との間の通勤・通学流動について、熊本市・宇城市が流入・流出ともに最も多く主に熊本市のベッドタウン的な傾向が見られます。

■人口の将来展望

- 自然増減影響度が高いことから中長期的には自然増が重要であるという観点を重視しつつ、若い世代や子育て世代の転出抑制に向けた対策が必要となります。
- 第1期及び第2期人口ビジョンでは、長期的な視点から「2060年」の将来展望人口を「31,000人」と設定しましたが、第3期人口ビジョンでは、加速化する人口減少は戦略的に取り組む喫緊の課題として捉え、中期的な視点で10年後の「2035年」と20年後の「2045年」の将来展望人口を設定することとします。

将来展望人口の推計方法

出生に関する仮定	2070年までに合計特殊出生率が2.1まで上昇すると仮定
移動に関する仮定	2025年以降の移動率は社人研に準拠し、かつ年間37.25人の増加が2070年まで続くと仮定



第3期の将来展望人口

10年後の「2035年に33,000人」
20年後の「2045年に31,000人」を維持する



■戦略の概要

本戦略では、第2期宇土市まち・ひと・しごと創生総合戦略を継承し、地方創生2.0の考え方などを踏まえ、地方創生の更なる充実・強化を図ります。

■第3期宇土市まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ

第3期総合戦略は、本市の最上位計画である「宇土市総合計画」を上位計画とし、その他各分野の個別計画との整合を図りながら策定します。

総合計画が本市の総合的な振興・発展などを目的とするのに対し、総合戦略は長期的な視点に立って人口減少問題への対応や地域経済縮小の克服などの地方創生を目的とするものです。

九州のどまんなかでみんなが輝きみんなが幸せになるまち宇土

基本目標1 誰もが結婚・出産・子育ての希望がかなうまちをつくる ～宇土で出会い・宇土で結ばれ・宇土で育む～

【1】結婚・出産の思いが実る環境を整える

【2】笑顔で子育てができる住み心地の良い環境を整える

【3】こどもが夢や希望を持って生きる力を育む
特色ある教育環境を整える

数値目標:「出生数」(R6) 231人→(R12) 240人

- (1) 結婚活動、結婚新生活への支援
- (2) 安心して妊娠出産ができる環境づくり
- (1) こども家庭センターによる総合的な相談支援
- (2) 子育て世代の経済的支援(医療費助成、就学支援の充実)
- (3) 地域におけるこどもたちの居場所、遊ぶ場の充実
- (4) 仕事と子育ての両立支援の充実
- (1) こどもや若者が探しチャレンジできる環境づくり
- (2) 郷土への誇りや生きる力を育む特色ある教育の実施
- (3) 宇土高校魅力化支援

基本目標2 魅力あるしごとをつくり、雇用を創出する ～宇土の産業を盛り上げて、宇土の美味しいを届ける～

【1】地元企業の持続的な発展と企業進出への
支援により経済波及効果を促進する

【2】宇土で働き、宇土に住む若い世代や女性・シニアの
就労を支援する

【3】農水産業の経営支援と高付加価値化による販路拡大を促進する

数値目標:「労働者数（個人市民税納稅義務者数）」(R6) 18,018人→(R12) 18,600人
「個人市民税の課税額」(R6) 1,406,693千円→(R12) 1,488,000千円

- (1) 地元企業の経営支援と創業支援の強化
- (2) 有効な土地利用による企業誘致の促進
- (3) 人材不足を解決するためのデジタルの活用支援
- (1) 多様な人材が活躍できる就労機会の創出
- (2) 従業員を大切にする地元企業の育成
- (3) デジタルデバイドの解消
- (1) 農水産業の経営支援
- (2) 農水産物の高付加価値化と消費・販路の拡大支援
- (3) 持続可能で人材不足を解消するためのスマート農水産業の導入支援

基本目標3 誰ひとり取り残されないみんなが誇れる地域をつくる ～「安心・安全」「便利で快適」健康で幸せな宇土の暮らしの実現～

数値目標:「宇土市は住みやすい」と思う市民の割合 (R6) 72.9%→(R12) 80%

【1】健康で生き生きと活躍できるまちを実現する

【2】まちの魅力を高め、つながり支え合う
地域コミュニティを目指す

【3】持続可能で快適に暮らせるまちを実現する

- (1) 健康づくりの推進
- (2) デジタル技術を活用した安定した医療提供体制の確保
- (3) 地域包括ケアの推進と地域共生社会の実現
- (1) 市民と外部人材の力を活かした地域活性化
- (2) 市民交流拠点の充実
- (1) 安心・安全なまちづくり
- (2) 環境にやさしいSDGsなまちづくり
- (3) コンパクトで交通の利便性が高いまちづくり
- (4) デジタルを活用した効率的な行財政運営

基本目標4 「九州のどまんなか」へ人の流れをつくる ～行ってみたい・住みたい・住み続けたい宇土の魅力を世界へ発信～

数値目標:「社会増数」(R6) 29人→(R12) 300人（累計）

【1】多くの人を魅了し、交流を生み出すまちを目指す

【2】地域資源を最大限に活かした芸術・文化・観光振興により
にぎわい創出を目指す

- (1) 九州のどまんなかを活用した効果的なシティプロモーションの実施
- (2) 国際交流と多文化共生の推進
- (3) 定住移住施策の強化(空き家活用、住環境整備含む)
- (1) 地域資源を活かした稼げる観光地づくり
- (2) 地域の伝統的なお祭りやイベント等によるにぎわい創出活動の支援